

い ざ な い

令和6年7月1日(月)～10月14日(月・祝)開催の特別収蔵展は、子どもたちのために生涯活動した浜松ゆかりのふたりの回顧展です。

児童文学作家

那須田稔

なすだみのる

手に取って読める本や劇で使う楽器や小道具などを多数展示



劇団たんぽぽ創始者

小百合葉子

さゆりようこ

◆小百合葉子さんは、浜松市滝沢の生まれ。西遠女子学園在学中に見た劇をひとつのきっかけに、東京で坪内逍遙に師事し、児童劇の道に入ります。疎開先の長野県で旗揚げした「劇団たんぽぽ」は、ふるさと浜松に拠点を移し、苦労を重ね、全国で公演が行われる児童劇団となりました。
◆那須田稔さんは、浜松市鴨江に生まれ、少年時代を満州で過ごします。終戦で浜松へもどり、浜松西高で詩の創作に取り組みます。ここが作家の原点でした。東京で児童文学作家として活躍。やがて浜松にもどり、弁天島で敏子夫人と共に「ひくまの出版」を立ち上げます。空飛ぶオートバイ、鈴木道雄物語など、次々と執筆し続けました。

今回の展示は劇団たんぽぽ

のみなさん、那須田稔さんの次男で、作家として活躍している淳さんに全面的な協力をいただきました。お子さんも楽しめる多数の児童書、劇で使われる楽器や小道具



多数の児童書



音を出してみよう

が会場内に並んでいます。劇団たんぽぽの代表村岡さんや役者で活躍する皆さんが、児童劇が出来上がる裏側のわかる展示をレイアウトしてくださり、子どもたちに笑顔や感動を届けたいという熱意あふれる内容になりました。また、那須田稔さんの息子の淳さんの視点で父の生涯を振り返り、ご家族所蔵の貴重な自筆原稿や写真などを用意いただきました。「しごとばシリーズ」「大ピンチずかん」などで知られる浜松出身の絵本作家、鈴木のりたけさんからのメッセージも含め、多数の展示をじっくりご覧ください。